

2022 年度 自己点検・評価報告書

(対象期間: 2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

2023年6月

大村美容ファッション専門学校

■2022年度 事業計画と総括

1、2030年に向けての中期目標

今年は残念ながら入学者目標を達成できませんでしたが、外部講師を授業だけではなく、広報にも活用する体制が取れるようになった事は、次年度以降につながる改革になっていると思います。

「オオムラプロジェクト・不易流行」を言い出して3年が経過し、校舎改装・時間割変更・選択授業の充実など、様々な事を変えてきました。

◇センスの良いオオムラ

学費が高くても入学者を集められる理由のひとつは、間違いなく我々の中のオシャレに対する意識の高さでしょう。

卒業式などの式典、パワフェスやファイナルコンテスト、パンフレットなどの発行物、HP・Youtube・インスタなど、小学校から大学まで、全ての学校と比べてオオムラがカッコいい。

そんなオシャレなオオムラをより進める為にデザインにこだわって欲しい。

◇オオムラプロジェクト

3年前からスタートしたオオムラプロジェクトでは以下の事を掲げていました。

- ・授業時間の短縮
- ・選択授業と課外授業の整備
- ・部活の充実
- ・教育環境、校舎の整備
- ・勤務時間の短縮
- ・学費を下げる
- ・広報の見直し
- ・働き方改革と人事考課の連動
- ・社会人を対象としたサービスや学科を作りたい

まだ着手していない項目もありますが、この中には無かった項目も着手しています。

少し検証してみます。

◇授業時間短縮

2年前から導入していますが、学習レベルの低下は見られず、授業効率が上がっていると評価できると思います。

ただし、美容師国家試験の合格率が低下している点だけは気になります。

この問題は真摯に受け止め改善すべきです。

クオリティを落とさずに時間だけを短縮させる為のキーワードは自主性です。

教わる本人にその気がなければ上達なんてしませんし、良いデザインなんて生まれる筈はありません。

遠隔授業は現在研究中で、2025年からの導入を目指しています。

◇部活の充実

- ・各科の専門分野を学べる機会がある
- ・好きな分野をとことん学べる

この矛盾する2点を各自が自由に選択できるようにしました。

美容・メイク・ファッションの学科を持つオオムラの特徴が活かせるカリキュラムです。他校が真似のできない、オオムラならではの好きな事が高いレベルで学べる課外授業と、美容・メイク・ファッションそれぞれの専門家に近づく部活を充実させます。

◇校舎改装

2022年3月に校舎改装の第一弾が完成しました。

次の改装は2023年度中に3号館とGB校のエアコン交換と天井改装をする予定です。

◇学費の値下げ

2023年に物価高騰支援の為に全学科・全学年の学費を5万円値下げしました。

これは来年も継続しますが、2025年からは元に戻す予定です。

ただしそのまま戻すのではなく、全員にタブレット端末を教材として支給し、遠隔授業や映像を使った授業の充実を図ります。

◇広報の見直し

広報の手段としてSNSなどのネットの活用は順調に進んでいる。

もっと重要なのは「オオムラにしかできない事」を打ち出すこと。

これは我々も気が付いていない部分が多いので、ガガーリンの「地球は青かった」ではないが、自分たちを客観視し、弱点はもちろん長所も明らかにしたい。

◇人事評価と給与体制の改革

微量ではあるが事務職のリモートワークが少しずつ進んでいます。

週に2日のリモートワークの目標には届いていないので引き続き進めます。

人事評価と給与体制を大幅に改革しました。

具体的には若年層の給与を引き上げ、ベテラン層の上がり幅を少なくしました。

若手のやる気を引き出すことはもちろん、若い優秀な人材を確保する事にもつながると思っています。

◇大村グローバルビジネス専門学校設立

2023年4月にGB科を大村美容ファッション専門学校から、大村グローバルビジネス専門学校として独立させました。

大村美容ファッション専門学校から離れたことにより、外国人留学生の募集や就職の活動がスムーズに行えます。

学校が分かれて二校になると余計な経費が掛かったり、校舎を自由に共有できなくなるなどのデメリットもありますが、コロナ過が明けて多数の留学生が福岡に入ってきている今が大村グローバルビジネス専門学校として名前を広めるチャンスだと判断しました。

2 学生募集目標について

- ① 美容・メイク・ファッション合計の入学目標 305 名に対し、入学 243 名で未達成
夏休み前までは前年比を上回っていたが、そこから落ちて行き挽回できずに未達成に終わった。
- ② グローバルビジネス科
目標 90 名に対して、入学 127 名で達成
日本語学校の卒業者が少なく、3 桁の入学生が居る専門学校は稀有な存在。
そんな環境での目標達成は広報の成功だけではなく、留学生間の口コミなど、学生満足度の高さを証明するものである。
来年度はコロナ明けで日本語学校の卒業予定者が多く、200 名以上の入学は十分に達成できると思う。

3 教育課程の改革と改善

教育理念「一に人格二に技術」は不変であるが、2023 年度から基本動作の「挨拶・返事・時間」を「挨拶・時間・自立」に改めた。
個性が重視される現代において、自分はどうなりたいのか？自分の強みを生かすにはどうすればいいのか？を考えさせる教育に取り組みたいと変更した。

4 教育目標達成の為の方針

- ①1 年次の退学率低減へ向けて「生活指導」を強化する。
- ②美容師国家試験合格率向上のために、特に学科科目対策を図る。
- ③GB 科は日本の常識の理解と実践、大村の人格教育をさらに強化する。
- ④全学科でインターンシップを強化し産学協同教育の更なる強化を計る。
- ⑤近隣活動や外部コンテスト参加等、教育の質を上げることで、教学の質に磨き上げる。
- ⑥ファッションリテーター(2 年生)を活用し、先輩と気軽に話せる環境を設定する。

5. 管理部門の目標管理

- ①学校資産の有効活用を期して、銀行対策、不動産対策を行なう。
- ②予算委員会・予算執行管理の精緻化で、管理経費の削減の徹底。
- ③本校卒業後の奨学金返還を推進する。
- ④教職員の健康管理。福利厚生情報の提供、働きやすい環境整備を図る。

■評価項目の達成及び、取組状況

(1)教育理念・目標

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切……2、不適切……1			
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
② 学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
⑤ 各学科の教育目標、育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	④	3	2	1

① 課題

本校の教育目標は「業界を牽引する人材を育成する」であり、このベースとしている教育理念は「一に人格 二に技術」です。

この理念等の周知について、学生は新入生導入時研修を通じ、また、保護者に対しても、体験入学時の保護者会、新入生歓迎式、一年次保護者会などを通じて、ご理解いただくため徹底してきました。

特に一年次では、毎日の授業を通じて理念の具体的行動化を図り、二年次では、基本動作(挨拶・時間・自立)と5S(整理・整頓・清掃・清潔・作法)に加え、自分らしさを表現できるようにしています。

また教育理念等の考え方を明記した学生便覧を入学時に学生に配布し徹底しています。

2013年10月から学校関係者評価結果や事業報告・財務状況なども公開しました。これを引き続き継続中です。

業界のニーズの把握については職業教育機関としてきわめて重要と考えています。特に教育課程編成委員会や外部講師等を通じ、また産学協同教育による機会を通じて、常に把握するように努めています。

また、社会経済のニーズと学校の将来構想については、学校法人として極めて重要な課題と捉えています。

少子化はいうまでもなく、本校の主力学科である美容分野については、美容師試験の受験者数(全国)で見ても、ピークの2004年には29,840名であったものが、2022年度は19,505名と、10,335名も減少しており、学校法人として、この美容分野以外の学校又は学科の展開を考えないわけにはいきません。

しかしながら近年の動きをみると2019年の17,288名を底に2020年18,170名、2021年

18,563名と増加し続けている。

この現象を楽観視することなく、引き続き他分野の展開を考えたい。

一方、高等教育機関と日本語教育機関に在籍する留学生はコロナ禍の期間を除くと増加の一途をたどっています。また国も留学生受け入れを推奨する政策をとっており、よほどの事がない限りこの増加傾向は続くと思われま

す。留学生をめぐる法改正も頻発しているので、今後もしっかりとアンテナを張り、留学生教育を進めたい。

② 今後の改善方法

学校法人の総合力強化を図り、社会経済ニーズに対応する留学生対象の学科、の発展拡大のために2023年に新学校「大村グローバルビジネス専門学校」を設立しました。

他方、既存の美容・メイク・ファッション学科においては、学校内での実習や学外インターシップの到達目標を明確化して、その段階的教育目標を定め、企業との連携の中で具体的能力取得を計画的に図ってまいります。

またこれも継続して、主体性を伸ばす教育手法(アクティブラーニング)を活用することによって、学びの楽しさを感じさせ、学生相互の学びの質の向上を図ります。

キャリア教育について、特に入学後の早い段階から、各職業の業務の実態や必要な能力を十分理解させ、明確な目的意識を持たせた上で、一人ひとりのキャリア形成を支援していきます。

学生には、キャリアプランニング能力や、課題対応力が求められるところですが、現状の学生の目的意識はまだまだ漠然とした状態であることも否めません。

そこで教職員のキャリア教育研究プロジェクトを立ち上げ、「キャリアデザイン」の授業改革・従来の就職指導研修から、キャリア教育研修への改革を目的として努力を継続しています。

このプロジェクトの結果として、通年でのキャリア教育カリキュラムの始めに、自分自身を見直すために、教材「職業とキャリア」の活用や禅寺での座禅体験なども導入されています。

③ 特記事項

計画については、監査法人・関連金融機関等にも周知しています。

《学校関係者評価》

--

(2)学校運営

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切……2、不適切……1			
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
④ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	③	2	1
⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
⑥ 業界や地域社会等に関するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

① 課題

運営方針については、各年度の事業計画として、学校・部門・学科まで策定しています。ただ運営方針に基づいた計画の精度については、部門、学科により問題意識や精度に於いて差があり、学校が目指す中期構想や当年度方針を、部門ごとにどこまで緻密に計画し、PDCAサイクルを好循環させるかが課題です。

意思決定機能は、組織的に、実質的に機能しています。評議員会・理事会を法人の意思決定機関として、学校においてはキャビネットを意思決定の最高機関とし、その下に課長会議・部門会議等を置いています。

人事評価制度は2022年4月から新たな制度を作ろうと人材を投入し、2023年4月に本格的に評価方法と報酬の改正をスタートしました。2024年4月完成を目指して改正を進めます。

学校教育法並びに専修学校設置基準におけるコンプライアンスは常に遵守しています。業界・地域社会を交えたコンプライアンスについては、学校関係者評価を企業代表・近隣住民代表に参画いただいています。また情報の公開もWEBを通じて実施しています。

情報システム化は、学生募集管理システム、在校生管理システム、経理システム、学費管理システム、就職情報管理システムとして効率化しています。

長年の課題であった個人情報のシステム化が進み、入学前・在校時・卒業後まで一元化ができるようになりました。ただしまだ就職の情報などのリンクが出来ていないので、引き続き改善を進めます。

② 今後の改善方法

- ア. 人事関係各規程の整備。
- イ. 学校関係者評価継続実施
- ウ. 情報管理システム改訂への研究。

③ 特記事項

特になし。

《学校関係者評価》

--

(3)教育活動

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切……2、不適切……1			
① 教育理念に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
② 教育理念、育成人材等や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
⑥ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ・実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

カリキュラムについては、2011 年度より各教科課程のシラバスまで明文化し、学生便覧として在校生に配布・説明・周知徹底しています。

また教育課程編成委員会を通じて、企業等の意見を反映して、企業ニーズを認識したものとしています。ただ資格取得のための教育時間の限定もあることから、必ずしも企業の求めるレベルに到達しにくい現実もあります。

職業教育=即、戦力として役に立つ知識・接客力・技術など、企業連携を図って実施することが出来ました。現場体験することにより、企業様から求められる基礎知識力や接客力を

学ぶことが出来、学生が実感することも出来ました。

産学連携のインターンシップについてはかねてより重視してきており、教育効果も高く、継続して実施しています。特にファッション分野では新しく1年生より行うことで、学生の就職意欲の向上にも繋がっております。今後も、その深耕を目指して、就職内定後の内定企業でのインターンシップを強化します。

今後もカリキュラムの体系化と、修業年限に対応する教育到達目標の明確化を図るために取得単位を明確にして、学生便覧に明記され、周知徹底しています。

授業評価の方法として、各学年に各一回全学生対象・各クラス代表科目12科目の授業アンケートを実施しています。無記名、PCを使った入力で、匿名性に配慮し、なるべく実情の把握をできるようにしています。この結果をもとに、各クラス別に学校長はじめ学校側と学生代表3名による、授業評価分析委員会を実施しています。数値だけでは判断しにくい、授業に対する学生の要望などを聴取できる有意義な委員会です。ここで出た意見は担任教員・講師にフィードバックして、授業の改善に取り組んでいます。2022年度の学校平均は、5点満点の4.5で前年より0.1ポイント下がりました。

要因としては、Web授業での対応力不足(学校環境・学生自宅環境・パワーポイントの資料不備)などです。教員のWeb力の向上が課題となっております。

総体としては毎年更新している授業指導ノートを基本とし教員の意識も上がり、この授業アンケートを利用して授業の満足度向上が図られています。

教職員の研修については、教育研修規程も整備し、各種取り組んでいるところですが、外部講師を依頼し知識・技能等を習得するまでには、至っておりません。コロナ禍も収まりより特化したより現場に近い知識・技術の修得を図っています。

教職員の研修履歴については学校長秘書室が管理し、全教員の教育機会均等・強化ポイントの把握など、定着して深耕されています。

② 今後の改善方法

- ア. Webによる授業の向上。
- イ. 学校関係者評価の継続実施。
- ウ. 教職員研修の強化。特に専門知識・技術分野の強化。

③ 特記事項

特になし。

《学校関係者評価》

--

(4) 学修成果

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切……2、不適切……1			
① 就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
② 資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
③ 退学率の低減が図られているか	4	3	②	1
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

① 課題

就職率について、昨年は進路変更を除く就職希望者の100%を達成しています。
コロナ禍収まり、関連企業様の求人も増え希望の企業様への就職が行えました。

学生の将来を考える時、各企業の経営理念・方針・人事制度・定着率等を勘案した就職指導が必要で、SNS やネットでの求人情報だけの判断ではなく、インターンシップなどを活用して現場の状況をしっかりと認識させ、ミスマッチを防ぐ取り組みを行っております。
Instagramによるサロン探しが、普及する中での指導法も課題と言えます。
学生の職業意識(理想と現実の乖離に対する耐性も含めて)をいかに高く持たせるかが、最大の課題と言えます。

退学率、前年度は10.6%とでしたが本年度9.9%と0.7下がりました。

退学する主たる理由は、「進路変更」「学校生活不適應」「病気の為」「金銭的」が大きな要因です。授業に対してやイベントに関して等学生の学ぶ意識の向上を図り、学生が学ぶ楽しさ、働く楽しさを体験・体感させ成功体験を多くしていくことが課題と思われます。

資格取得については、全科で17の資格を設け100%を目指し指導しております。
美容7つの資格中、合格率94.9% メイク6つの資格中、合格率93.3% ファッション4つの資格中、合格率67.2%が本年度の結果となります。
多くの資格取得に意欲的に取り組んでいる結果が出ております。

2022年度は学習成果として、多くのコンテストに参加することが出来ました。
結果は以下の通りです。、チャレンジ精神を忘れず入賞実績を残すことが出来たことは学生達の日頃の努力によるものです。

コンテスト名	受賞名	クラス	名前
D-contest	審査員賞(iro 賞)	トップスタイリスト科3年	西村悠大
D-contest	審査員賞(いけのの賞)	トップスタイリスト科2年	乙成彩美
D-contest	審査員賞(RYUSEI 賞)	美容科1年1組	谷内柚奈
D-contest	準グランプリ	美容科1年1組	谷内柚奈
D-contest	ファイナリスト	美容科1年1組	山本 風薫
D-contest	ファイナリスト	美容科2年3組	小川 実夢
D-contest	ファイナリスト	トップスタイリスト科1年	青谷 来尚
VAN COUNCIL フォトコンテスト	優秀賞	美容科2年2組	小森 万由実
RaginaHAIR&MAKE-UP PHOTO COMPETITION	準入選	美容科2年2組	小森 万由実
第9回全国美容専門学生 ヘアメイク総選挙	入賞	美容科2年2組	小森 万由実
熊本カンパネラフォトコンテスト	準グランプリ	美容科2年2組	小森 万由実
FUTURE 2022	総合4位	美容科2年2組	小森 万由実
FUTURE 2022	審査員賞(amy.賞)	美容科2年2組	小森 万由実
LUXE BEAUTY ヘア&メイクアップコンテスト 2022	入賞	美容科2年3組	加藤 美晴
STYLING COLLECTION	優秀賞	美容科2年3組	小森 万由実
STYLING COLLECTION	優秀賞	美容科1年1組	川原 夢奏
STYLING COLLECTION	優秀賞	美容科1年2組	岩本 いろは
STYLING COLLECTION	優秀賞	美容科1年4組	北里 天音
STYLING COLLECTION	優秀賞	美容科1年4組	白岩 杏
STYLING COLLECTION	優秀賞	美容科1年4組	志賀 麗奈
STYLING COLLECTION	優秀賞	美容科1年4組	田崎 梨紗子
STYLING COLLECTION	優秀賞	トップスタイリスト科1年	高橋 桜花
STYLING COLLECTION	優秀賞	トップスタイリスト科1年	川島 愛凜
STYLING COLLECTION	優秀賞	トップスタイリスト科1年	小野 鈴紗
STYLING COLLECTION	BRONZE PRIZE	トップスタイリスト科1年	平松 美月

STYLING COLLECTION	優秀賞	トップスタイリスト科 1年	麓 葵衣
ユーカリジャパン デザイナーズアワード 2022	サロン賞	美容科 2年 2組	占部 陸斗
ユーカリジャパン デザイナーズアワード 2022	サロン賞	美容科 2年 2組	袈裟丸 郁美
ユーカリジャパン デザイナーズアワード 2022	サロン賞	美容科 2年 2組	谷 里美
ユーカリジャパン デザイナーズアワード 2022	サロン賞	美容科 2年 2組	樋口 真捺
ユーカリジャパン デザイナーズアワード 2022	サロン賞	美容科 2年 2組	山口 優空
熊本カンパネラフォトコンテスト	入賞	美容科 2年 1組	田中 雄大
ネイルアートコンテスト2022	ゴールド	美容科 1年 2組	佐藤 京花
ネイルアートコンテスト2022	シルバー	美容科 1年 3組	井上 七海
ネイルアートコンテスト2022	シルバー	美容科 1年 3組	宇戸 楓
ネイルアートコンテスト2022	シルバー	美容科 2年 1組	戸高 郁美
ネイルアートコンテスト2022	シルバー	美容科 2年 2組	大久保 咲花
ネイルアートコンテスト2022	シルバー	トップスタイリスト科 1年	小野 鈴紗
ネイルアートコンテスト2022	メーカー	美容科 2年 3組	加藤美晴
PEEK-A-BO ウィッグデザインコンテスト	ビューティギャラリー賞	美容科 2年 1組	甲斐利光
就活 Egg2023 in OSAKA EGG PHOTO COLLECTION2023	優秀賞	トップスタイリスト科 2年	林田 岳瑠 高橋 桜花
就活 Egg2023 in OSAKA EGG PHOTO COLLECTION2023	ジャーナル賞(髪書房)	トップスタイリスト科 2年	林田 岳瑠 高橋 桜花
就活 Egg2023 in OSAKA EGG PHOTO COLLECTION2023	審査員賞(snob.)	トップスタイリスト科 2年	林田 岳瑠 高橋 桜花
就活 Egg2023 in OSAKA EGG PHOTO COLLECTION2023	準グランプリ	トップスタイリスト科 2年	林田 岳瑠 高橋 桜花
就活 Egg2023 in OSAKA EGG PHOTO COLLECTION2023	優秀賞	トップスタイリスト科 2年	本田 理子 西村 靖一郎
就活 Egg2023 in OSAKA EGG PHOTO COLLECTION2023	ジャーナル賞 (女性モード社)	トップスタイリスト科 2年	本田 理子 西村 靖一郎
就活 Egg2023 in OSAKA EGG PHOTO COLLECTION2023	優秀賞	美容科 2年	岩本 いろは 阿部 こはる
就活 Egg2023 in OSAKA EGG PHOTO COLLECTION2023	優秀賞	美容科 2年	小田 晃瑛 東山崎 伶
ICAM MAKE-UP PHOTO COMPETITION 2022	フランソワレグディ賞	メイクアップ科	樋渡 千花
UNION Photo Contest 2022	4位	メイクアップ科	森 奈々香
LUXE BEAUTY ヘア&メイクアップコンテスト 2022	入選	メイクアップ科	井川 三鈴
ファッション販売 ロールプレイングコンテスト	グランプリ	ファッション科	永野 萌香

② 今後の改善方法

退学率低減については、本年度の反省を踏まえた対策を行い、成功体験や成長を褒め他者との関係性を持つことに困難を感じる学生対策に重点を置き声掛けや褒めることなどを強化し、早期発見、早期治療で学生とのコミュニケーションを図ります。そして、担任教員による個別指導も徹底していきます
保護者様とのコミュニケーションをはかり協力体制をつくり、なるべく早く問題兆候を発見し、早期解決を図ります。

③ 特記事項

特になし。

《学校関係者評価》

--

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
② 学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
⑦ 保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
⑧ 卒業生への支援体制はあるか	4	3	②	1
⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	②	1
⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

① 課題

各部門の進路・就職指導については、担任・就職企画室にて、全員が目指す業界への就職活動を取り組み、求人情報収集、案内、キャリア教育・内定獲得のための支援活動を行ってきました。今期もコロナ禍の状況が就職内定に影響がありました。

学校全体として就職率は 98.3 %でした。

卒業時に就職内定が出ていない学生に関して卒業後も就職指導のフォロー体制を整え、学内企業説明会への参加促進など学生への情報提供、就職指導を継続して行います。

就職支援のサポートはクラス担任が学生支援を中心に、就職企画室はフォロー体制の教務との連携など組織体制は整備していますがまだまだ不十分な部分も多くあります。

求人情報の提供はキャリアマップ、エアジョブなどの企業情報閲覧システムを活用し、いつでも閲覧できるように整備していますが、SNS による求人情報の発信などの各企業様の情報提供の方法も変化に対応できている部分出来ない部分とあります。またリクナビ、マイナビでの求人活動のフォロー体制などもさらに強化が必要だと感じています。

学内において企業ガイダンスは、コロナ前の状況から比べると40%の企業招致での開催にとどまっています。今後は通常開催へと移行していけるように計画していきます。

また就職活動の一環としてインターンシップの参加促進を強化しましたが学生の受講が思うように参加できていませんので、より学生の活動に合わせたインターンシップの参加促進などの計画が必要です、早期選考のためのインターンシップも年々早めの取り組みになっていますので企業採用スケジュールに遅れることなく早め早めの取り組みが求められます。ZOOM 等のオンライン説明会、オンライン面接などの指導対策授業、自己 PR 動画など多くの課題に対しての対応力の強化が求められます。

学生相談の体制は整備し、学生支援、生活修学支援など様々な相談に教職員全員で対応しています。経済面の支援について学費の納入においては個別の事情に応じて柔軟に納入時の延納、分納などの対応を行いました。

給付奨学金を含む修学支援制度について、貸与奨学金と併用して利用するなど多くの学生

に情報提供を行いよりスムーズな情報提供を行っています。

奨学金利用者が年々増加しており保護者及び学生本人の理解度の UP が求められますのでスクリーンを活用した情報提供の強化をスタートさせました。これにより学生本人、保護者へタイムリーに情報提供できる環境を整えました。

年 1 回、学生、教職員の健康診断を実施、希望者にはインフルエンザの予防接種を実施、各校舎コロナ対策でサーモカメラによる検温、各教室入り口での消毒、毎朝の健康管理状況確認シートを活用し予防対策、啓発活動を継続して行いました。

近隣との連携については昨年に引き続きすべての取り組みを中止しました。

課外活動支援についてもコロナの影響で開催を見送りました。

年間の授業計画の中で保護者会、三者面談も対面、オンラインとの併用で何とか開催することができました、コンテストなどの成果発表についても参加人数を制限させていただきインスタのライブ配信を行い保護者様へ学生の成長を見て頂くことが出来ました。

保護者満足度のための対策について次年度は通常開催で計画になると思います。

コロナ禍で卒業生の情報収集が出来ていません。この部分は今後の課題です。

高校対策は継続して力を入れています。高校訪問については学生募集の大切な要素であるため、広報の主幹業務として年間を通じ定期的に行い高校の先生方との信頼関係の構築などを強化し、継続して、総合学習支援で、出張授業を実施することで美容、メイク、ファッションの業界を目指す学生の早期の意識付けなどにも積極的に取り組んでいます。

② 今後の改善方法

ア. 学校健康安全法に基づくコンプライアンスの強化

イ. 就職指導の支援体制の強化(SNS の活用)

ウ. 卒業後の支援体制の組み立て

③ 特記事項

特になし

《学校関係者評価》

--

(6)教育環境

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切……2、不適切……1			
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4	③	2	1
② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
③ 防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 課題

3棟ある校舎は、竣工から29年、21年、18年が経過しており、経年劣化が見られます。一番古い1・2号館については、2021年度に大規模な内装リニューアル工事を実施しました。他については安全面で問題のないように状況を見ながら、計画的に改修等を検討していく必要があります。

設備備品に関しては、故障や不具合がある度に修理等をおこなっていますが、こちらも経年劣化が見られます。現状で経年劣化が一番激しい3号館の空調については、2023年度に取り替えを実施いたします。

なにぶん多額の資金が必要になりますので、一気にやっしまえる事ではありませんが、校舎の内部・外部・設備備品について、状態に応じて優先順位を見極めながら、計画的に実施していく予定です。

教育のオンライン化・デジタル化などについては、優先課題としてプロジェクトを組んで積極的に取り組んでいきます。時代の変化をしっかりと視野に入れて、検討をして実施していきます。

学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等については、2022年度もコロナ禍による影響が大きく、中止や実施内容の見直しなどが相次ぎました。2023年度は以前のように積極的に実施していく予定です。

防災については、法令に則った避難訓練の実施、避難マニュアル・防災計画などの充実に取り組んでいきます。

② 今後の改善方法

劣化した設備備品の更新を推進します。
教育のオンライン化・デジタル化を推進します。

③ 特記事項

特になし

《学校関係者評価》

--

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切……2、不適切……1			
① 学生募集活動は、適正に行われているか	4	③	2	1
② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
③ 学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

学生募集活動のコンプライアンスに問題はないと判断しています。

本学園理事長が福岡県専修学校各種学校協会の会長でもあり、特に出願時期の申し合わせについては厳守し、総合型選抜入試についての競合で地元専修学校が不利にならないように、福岡県の高校進路協議会の理解も得て、2022年度からは、総合型選抜入試に係るエントリー時期を7月1日からと定めていただきました。

課題は、学生数確保です。適正な活動を継続しながら、学生数を確保していくことが最大の課題です。2023年度の学生募集活動の結果として、2023年入学生は253名、確保致しました。しかし、前年度より28名の結果となりました。

学校として、ひきつづき募集に注力します。

尚、目標数値に達成することが出来なかった要因としては、個別対応の強みのアピール不足が大きな要因と言えます。大村の人格育成指導や技術力など、他校と違う強みの共有とトーク力を磨くことが必要と考えます。

学納金については募集要項に明記し、適正なものとしています。

② 今後の改善方法

特になし。

③ 特記事項

特になし。

《学校関係者評価》

--

(8)財務

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切……2、不適切……1			
	① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
③ 財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
④ 財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

入学生の推移が前年度の増加から、今年度は減少となりました。入学生の安定的な確保が図れず、結果、資金繰りは不安定な状況が続きます。多額な資金が必要となる事業に関しては慎重な判断を今後も要することになります。しかし、校舎設備の老朽化に伴う更新など後回しにできない事業も滞っており、資金計画の見直しを行い、計画的な資金運用を行います。

② 今後の改善方法

上記の課題を乗り越える長期経営計画の見直しを行います。事業活動収支の収入超過だけでなく、資金収支において、前年度末資金残高より当年度末資金残高が上回る予算になる経営戦略の見直しを図ります。また、昨年度からはじめた経理業務の電子システム化を完了させ、業務の効率化のみならず、予算管理のリアルタイム化を図ることで資金の適切な消費に努めます。

③ 特記事項

特になし。

《学校関係者評価》

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切……2、不適切……1			
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
② 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	4	③	2	1
③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
④ 自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

個人情報に対する社会的な意識の変化や、SNSなど情報の漏洩環境の多様化などによって、個人情報を取り巻く状況が年々変化しており、それに対応した取り扱いが求められます。

そのような変化に注視をしていきながら、取り扱いの方法などを変えていくのはもちろんの事ですが、それを取り扱う教職員1人1人の意識が時代遅れになってしまわないような意識の更新をおこなっていく必要があります。

② 今後の改善方法

個人情報を取り扱う教職員に対して、情報や知識のアップデートをおこなっていく。

③ 特記事項

特になし。

《学校関係者評価》

--

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切……4、ほぼ適切……3、 やや不適切……2、不適切……1			
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	②	1
③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	①

① 課題

地域貢献としては、例年は学生主体の自主組織による町内会イベントへの協力等を実施していましたが、2020年度よりコロナの影響で町内会のイベントは中止となり参加が出来ませんでした。

また強化活動として特別養護老人ホーム等への出向も行えませんでした。

施設を活用した社会貢献として、公益法人 福岡よかトピア国際交流財団依頼によるウクライナの方々へのデザインズを利用しカットなど、美容施術を実施いたしました。学生も学び体験することで社会情勢にも関心が出ておりました。高校依頼によるインターンシップ(職業理解制度)や、中学校依頼による職場体験では(吉岐中学校・箱崎中学校・志免中学校・糟屋東中学校)と4校の学生を受け入れ実施しました。

また11月に近隣感謝デーとして学校を開放し、美容についてのサービス等を実施していましたが2020年度よりはコロナ感染防止のため中止と致しました。尚、2022年度の学園祭については参加人数を制限して10月に実施する事が出来ました。

② 今後の改善方法

地域への貢献が検討課題です。

③ 特記事項

特になし。

《学校関係者評価》

--

■学校評価の総合的な評価結果

2022年度 自己点検評価結果については、総合判断 3.50。
(前年より0.03ポイントアップの評価点です)

2022年度も引き続きコロナ禍が学校運営の様々なところに影響を及ぼした1年でした。
しかし、前年度・前々年度の経験を活かして、そのような状況でも学校運営のクオリティが
下がってしまわないように模索して試みた1年でもありました。

2023年度は、コロナ禍による制限もほとんど無くなり、充実した学校運営がおこなえるよう
に、教職員一同がんばってまいります。

《学校関係者評価》

--